

奈良のむかしばなし

第74話

お化粧する女神様 文・山崎しげ子

の地でひと休み。女神様はお供えされた化粧品でお化粧直しをなさった。白粉、口紅、頬紅、眉墨など、それはそれは、たくくさん。

ところが、ある年のこと。村人が、「化粧品といっても、神様はお使いにならないやろ。捨てるのももったいない。娘にやろう」といい、そこである神官が家に持ち帰った。

さてさて、化粧品を入れた箱の蓋をあけてみると、何と、中は空っぽ。びっくりした神官はこのことを村人たちに伝えた。「恋しい夫の神様にお会いなさる女神様。きつと美しい上にも美しくお化粧をなさる。やっぱり、神様はおられるんや」と。

それから、村人たちは「いっそう信心深くなったそうや。」

宇太水分神社は、『古事記』などに伝える崇神天皇の創建とされる古社。水分の神は、水配り、つまり農耕にもっとも重要な水の配分を司る神のこと。豊作を祈願して水源地などに祀られ、古くから人々の信仰を

集めてきた。

大和朝廷では、東西南北、つまり、宇陀、葛城、吉野、都祁の地に四つの水分社が祀られ、東の宇太水分神社はその一つ。

境内は、見上げるばかりの老樹に囲まれ、野鳥の囀りだけが響く。静寂の中、鎌倉時代の建物である本殿（国宝）の朱塗りの社殿が、美しい姿を見せている。



うたの秋祭り

平安時代から続く祭り、10月第3日曜日に行われています。

年に1度、惣社水分神社の女神である速秋津姫命が、宇太水分神社の男神である速秋津彦命に会うため、片道6kmの道のりを神輿に乗ってやってきます。この神輿渡御は大名行列の形をとり、挟箱、槍振、花籠などが神輿を先導します。

宇太水分神社境内には速秋津姫命をお迎えするため、菟田野各地域から6基の勇壮な太鼓台が乗兎の叩く太鼓の音とともに集まります。境内での太鼓台の繰り返しは迫力満点です。YouTubeでも楽しめます。

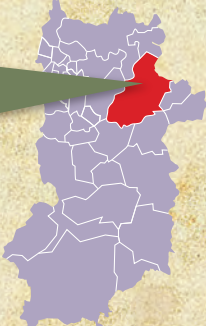


うたの秋祭り

宇太水分神社

物語の場所を訪れよう

「宇太水分神社」(宇陀市菟田野古市場245)
奈良交通バス古市場水分神社前下車、東へ約100m



宇陀市観光課
☎0745-82-2457

YouTubeはこちらからご覧いただけます。

宇陀市の秋祭り 検索